



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月9日

上場会社名 不二製油グループ本社株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2607 URL <https://www.fujioilholdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 酒井 幹夫
 問合せ先責任者 (役職名) 連結グループリーダー (氏名) 永山 勝博 TEL 06-6459-0731
 四半期報告書提出予定日 2021年11月9日 配当支払開始予定日 2021年12月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	204,503	18.5	7,913	7.8	7,631	11.6	6,015	39.3
2021年3月期第2四半期	172,589	△9.9	7,338	△19.6	6,835	△17.9	4,318	△30.5

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 11,572百万円 (－%) 2021年3月期第2四半期 805百万円 (△69.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	69.98	—
2021年3月期第2四半期	50.24	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	373,601	172,103	45.3	1,968.95
2021年3月期	358,511	162,890	44.6	1,861.67

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 169,255百万円 2021年3月期 160,023百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	26.00	—	26.00	52.00
2022年3月期	—	26.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	26.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	430,000	17.9	18,000	0.5	16,800	△4.4	11,500	4.4	133.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※詳細は、本日公表の「第2四半期累計期間業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	87,569,383株	2021年3月期	87,569,383株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	1,607,191株	2021年3月期	1,612,196株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	85,958,397株	2021年3月期2Q	85,957,507株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に対する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想値とは異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの変更を行っております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」を参照下さい。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分にて組み替えた数値で比較分析をしております。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の再拡大がみられましたが、各国でワクチンの普及を背景に、経済活動の再開が図られたことから、需要の回復が進みました。一方、パームや大豆などの原料価格につきましては、経済活動再開に伴う需要の回復期待に加え、代替エネルギーとしての需要拡大への期待が続いていることから、高止まりの状況が続いています。

日本におきましては、9月末まで緊急事態宣言等の発令が行われましたが、経済指標などが改善傾向であるなど、景況感の改善が進んでいます。米州及び欧州におきましては、米国でのサプライチェーンの混乱や労働人員不足は続いているものの、景況感の改善が見られ、需要の回復が続いています。東南アジアにおきましては、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により、景況感の回復は緩やかとなっております。また、中国におきましては、原料高の影響などがありますが、需要は底堅く推移しております。

当連結会計年度は、前連結会計年度までの中期経営計画「Towards a Further Leap 2020」(2017-2020)で未達であった施策の再取り組み及び、翌年度から始まる新中期経営計画に向けた重要な期間であるという認識とともに、グループ一丸となって企業価値向上の取り組みを進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における経営成績は、以下のとおりとなりました。

なお、対前年同期比で親会社株主に帰属する四半期純利益が増加している主な要因は、第1四半期連結累計期間に計上したシンガポールにおける固定資産売却益及びブラジルにおける還付税金の特別利益によるものです。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
2022年3月期 第2四半期連結累計期間	204,503	7,913	7,631	6,015
2021年3月期 第2四半期連結累計期間	172,589	7,338	6,835	4,318
前年同期比 増減 (前年同期比 増減率)	+31,913 (+18.5%)	+574 (+7.8%)	+795 (+11.6%)	+1,696 (+39.3%)

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	売上高	前年同期比 増減	前年同期比 (%)	営業利益	前年同期比 増減	前年同期比 (%)
植物性油脂	61,686	+14,701	+31.3%	4,263	+836	+24.4%
業務用チョコレート	87,608	+12,499	+16.6%	2,810	△25	△0.9%
乳化・発酵素材	37,665	+4,003	+11.9%	954	+321	+50.7%
大豆加工素材	17,543	+709	+4.2%	1,753	△499	△22.2%
連結消去・グループ管理費用	—	—	—	△1,869	△57	—
合計	204,503	+31,913	+18.5%	7,913	+574	+7.8%

(植物性油脂事業)

売上高は、主原料のパームの価格上昇に伴う販売単価の上昇に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復による販売数量の伸長により、大幅な増収となりました。利益面では、原材料価格高騰への対応に加え、経済活動の再開による販売数量の回復、欧州でのチョコレート用油脂の販売数量の伸長などにより増益となりました。

(業務用チョコレート事業)

売上高は、販売数量の増加などにより大幅な増収となりました。利益面では、販売数量の増加による増益効果があったものの、前年同期に計上したBlommer Chocolate Companyの先物益の剥落により微減益となりました。

(乳化・発酵素材事業)

売上高は、国内連結子会社の連結除外に伴う売上高減少の影響はありましたが、販売数量の回復により増収となりました。営業利益は、東南アジアでの原材料高や工場統合による費用増加などの影響はあったものの、日本での販売数量の回復により増益となりました。

(大豆加工素材事業)

売上高は、大豆たん白素材などの堅調な販売に加え、前第2四半期連結会計期間に稼働を開始した千葉工場の寄与により、増収となりました。利益面では、千葉工場や欧州新工場建設に伴う費用先行や大豆の原料高の影響により、減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ150億89百万円増加し、3,736億1百万円となりました。引き続き、運転資本の圧縮やノンコア資産の売却等によりバランスシートを圧縮すること及びグループファイナンスの高度化により、財務体質を向上させ、経営の効率化を進めてまいります。

当第2四半期連結会計期間末における連結財政状態は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期 第2四半期	増減
資産	流動資産	160,736	168,511	+7,774
	有形固定資産	129,435	132,673	+3,238
	無形固定資産	52,712	54,013	+1,301
	その他資産	15,626	18,401	+2,775
		358,511	373,601	+15,089
負債	有利子負債	131,309	134,980	+3,670
	その他負債	64,311	66,517	+2,205
		195,621	201,497	+5,876
純資産	162,890	172,103	+9,213	

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産は、配当金の支払いや法人税等の納付により、現金及び預金が減少しておりますが、運転資本の増加に伴い、流動資産は増加しております。有形固定資産は、工場新設や既存設備の更新等の投資を実施したことで増加しております。以上の結果、前連結会計年度末に比べ150億89百万円増加し、3,736億1百万円となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、運転資本の増加や設備投資の実施に伴う有利子負債の増加により、前連結会計年度末に比べ58億76百万円増加し、2,014億97百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、配当金の支払いがありました。円安基調における為替換算調整勘定の変動に伴い、前連結会計年度末に比べ92億13百万円増加し、1,721億3百万円となりました。

この結果、1株当たり純資産は前連結会計年度末に比べ107円28銭増加し、1,968円95銭となりました。自己資本比率は前連結会計年度末比0.7ポイント増加し、45.3%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況)

当社グループは、財務規律を維持・向上するためには有利子負債の削減に加え、着実な利益成長とCCCの改善により、フリー・キャッシュ・フローを毎年100億円以上創出する必要があると認識しております。そのため、設備投資の抑制、ノンコア事業の売却及び政策保有株式の更なる削減等により、キャッシュ・フローをコントロールしております。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期累計期間	2022年3月期 第2四半期累計期間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,365	3,116	△14,248
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,012	△8,192	△1,180
フリー・キャッシュ・フロー	10,353	△5,075	△15,428
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,064	254	+3,318
現金及び現金同等物	26,099	15,857	△10,241

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、31億16百万円の収入となりました。前第2四半期連結累計期間に比べ、原料価格の上昇に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に伴う販売数量の伸長による運転資本の増加を主要因として、142億48百万円減少しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、米国における植物性油脂事業の新規拠点建設、ドイツにおける欧米市場向け機能剤事業の新規拠点建設への設備投資等により、81億92百万円の支出となりました。前第2四半期連結累計期間に比べ、設備投資に伴う支出は減少したものの、前第2四半期連結累計期間に発生した国内子会社・海外子会社の株式譲渡に伴う貸付金の回収及び譲渡収入が剥落したことにより、11億80百万円支出が増加しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

前第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いや借入金の返済等により30億64百万円の支出となりましたが、当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いによる支出があったものの、運転資本の増加に伴う追加借入により、2億54百万円の収入となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、第2四半期までの実績並びに足元の市場環境等に基づく下期見通しを勘案し、2021年5月11日に公表した予想数値を変更しております。詳細は、本日公表の「第2四半期累計期間業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,463	15,867
受取手形及び売掛金	65,954	70,369
商品及び製品	31,832	35,484
原材料及び貯蔵品	36,960	41,356
その他	5,746	5,660
貸倒引当金	△221	△226
流動資産合計	160,736	168,511
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	37,468	37,138
機械装置及び運搬具(純額)	49,472	49,802
土地	17,719	17,530
建設仮勘定	17,810	21,591
その他(純額)	6,963	6,611
有形固定資産合計	129,435	132,673
無形固定資産		
のれん	25,590	26,072
顧客関連資産	16,046	16,510
その他	11,075	11,429
無形固定資産合計	52,712	54,013
投資その他の資産		
投資有価証券	7,411	7,105
退職給付に係る資産	4,670	5,096
繰延税金資産	642	665
その他	2,778	5,440
貸倒引当金	△61	△61
投資その他の資産合計	15,441	18,245
固定資産合計	197,589	204,933
繰延資産		
社債発行費	185	156
繰延資産合計	185	156
資産合計	358,511	373,601

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,222	29,940
短期借入金	36,965	41,217
コマーシャル・ペーパー	10,000	10,000
未払法人税等	2,608	1,953
賞与引当金	2,140	2,591
役員賞与引当金	87	5
その他	10,993	10,876
流動負債合計	91,017	96,584
固定負債		
社債	45,000	45,000
長期借入金	39,344	38,763
繰延税金負債	13,510	14,487
退職給付に係る負債	1,958	2,199
その他	4,790	4,463
固定負債合計	104,604	104,913
負債合計	195,621	201,497
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	11,945	11,945
利益剰余金	152,675	156,413
自己株式	△1,968	△1,954
株主資本合計	175,860	179,613
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,810	1,692
繰延ヘッジ損益	483	270
為替換算調整勘定	△18,150	△12,399
退職給付に係る調整累計額	20	77
その他の包括利益累計額合計	△15,837	△10,358
非支配株主持分	2,866	2,848
純資産合計	162,890	172,103
負債純資産合計	358,511	373,601

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	172,589	204,503
売上原価	141,761	171,485
売上総利益	30,827	33,018
販売費及び一般管理費	23,489	25,105
営業利益	7,338	7,913
営業外収益		
受取利息	88	359
受取配当金	48	44
為替差益	83	—
持分法による投資利益	52	85
デリバティブ評価益	135	2
その他	169	202
営業外収益合計	578	695
営業外費用		
支払利息	773	472
為替差損	—	14
その他	307	489
営業外費用合計	1,080	976
経常利益	6,835	7,631
特別利益		
固定資産売却益	12	737
投資有価証券売却益	65	385
関係会社株式売却益	530	—
還付税金	—	750
特別利益合計	609	1,874
特別損失		
固定資産売却損	33	49
固定資産除却損	109	334
減損損失	586	43
関係会社株式評価損	102	—
関係会社事業再構築損失	—	234
特別損失合計	832	662
税金等調整前四半期純利益	6,613	8,843
法人税、住民税及び事業税	1,427	2,318
法人税等調整額	778	473
法人税等合計	2,206	2,791
四半期純利益	4,406	6,052
非支配株主に帰属する四半期純利益	87	36
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,318	6,015

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	4,406	6,052
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	115	△117
繰延ヘッジ損益	△174	△212
為替換算調整勘定	△3,696	5,712
退職給付に係る調整額	52	57
持分法適用会社に対する持分相当額	101	80
その他の包括利益合計	△3,601	5,520
四半期包括利益	805	11,572
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	602	11,494
非支配株主に係る四半期包括利益	202	77

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,613	8,843
減価償却費	7,081	7,370
のれん償却額	1,046	1,075
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△345	△426
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	111	314
受取利息及び受取配当金	△137	△403
支払利息	773	472
減損損失	586	43
持分法による投資損益 (△は益)	△52	△85
投資有価証券売却損益 (△は益)	△65	△385
固定資産処分損益 (△は益)	129	△353
関係会社株式売却損益 (△は益)	△530	—
関係会社株式評価損	102	—
売上債権の増減額 (△は増加)	4,181	△3,822
棚卸資産の増減額 (△は増加)	4,433	△6,109
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,478	1,124
その他	△769	△1,183
小計	20,681	6,475
利息及び配当金の受取額	140	146
利息の支払額	△776	△420
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,680	△3,084
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,365	3,116
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△9,409	△8,570
有形固定資産の売却による収入	18	1,127
無形固定資産の取得による支出	△457	△624
投資有価証券の売却による収入	85	683
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	1,145	—
長期貸付金の回収による収入	1,735	11
長期前払費用の取得による支出	—	△755
その他	△130	△65
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,012	△8,192
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	7,162	3,858
長期借入れによる収入	5,128	2,010
長期借入金の返済による支出	△12,427	△2,978
配当金の支払額	△2,492	△2,237
非支配株主への配当金の支払額	△129	△104
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	79	—
その他	△384	△293
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,064	254
現金及び現金同等物に係る換算差額	231	226
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,520	△4,595
現金及び現金同等物の期首残高	18,578	20,452
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,099	15,857

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

(1) 物品販売に係る収益認識

当社グループでは、主に植物性油脂や業務用チョコレート、乳化・発酵素材、大豆加工素材等の販売を行っており、このような物品販売は、物品を引渡した時点において、顧客が当該物品に対する支配を獲得することにより、当社グループの履行義務が充足され、上記収益認識の要件を満たすこととなります。

従来、国内の一部のグループ会社による国内での物品販売からの収益は、物品を工場又は倉庫より出荷した時点で収益を認識しておりましたが、顧客に物品を引き渡した時点において収益を認識することといたしました。

(2) 変動対価が含まれる取引に係る収益認識(リベート取引)

国内の一部のグループ会社による国内での物品販売に係る収益のうち、一部の取引高リベート並びに目標達成リベートについて、従来は、販売費及び一般管理費として費用計上しておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

(3) 原料有償支給取引に係る収益認識

国内の一部のグループ会社における原料有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取り扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が643百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ5百万円減少しております。また利益剰余金の当期首残高は39百万円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる、当第2四半期連結累計期間に係る財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(取締役に対する株式報酬制度)

当社は、2020年6月18日開催の第92回定時株主総会決議に基づき、当社取締役（社外取締役を除く。）を対象に、取締役の報酬と当社の株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価の変動による利益・リスクを株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、株式報酬制度を導入しました。

本制度にかかる会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じております。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託（以下「本信託」という。）が当社株式を取得し、当社が各取締役に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各取締役にに対して交付されるという株式報酬制度です。また、本制度においては、2021年3月31日で終了する事業年度から2023年3月31日で終了する事業年度までの3事業年度の間在任する当社取締役に対して当社株式が交付されます。なお、取締役が当社株式の交付を受ける時期は、原則として取締役の退任時です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度343百万円、118,000株、当第2四半期連結会計期間328百万円、112,900株です。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りに重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

当前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは植物性油脂製品、業務用チョコレート製品、乳化・発酵素材製品及び大豆加工素材製品の製造販売を主として行っており、取り扱う製品群毎に国内外で事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品群を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「植物性油脂事業」、「業務用チョコレート事業」、「乳化・発酵素材事業」及び「大豆加工素材事業」の4つを報告セグメントとしております。

「植物性油脂事業」はパーム油及びパーム核油等を基礎原料とした食用加工油脂、食用油及びチョコレート用油脂等を製造販売しております。「業務用チョコレート事業」はチョコレート、コンパウンド及びココア製品を製造販売しております。「乳化・発酵素材事業」はクリーム、マーガリン及びフィリング等を製造販売しております。「大豆加工素材事業」は大豆たん白素材、大豆たん白食品及び水溶性大豆多糖類等を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	植物性油脂	業務用チョコレート	乳化・発酵 素材	大豆加工 素材	計		
売上高							
外部顧客への売上高	61,686	87,608	37,665	17,543	204,503	—	204,503
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,054	916	2,208	73	11,254	△11,254	—
計	69,741	88,524	39,873	17,617	215,757	△11,254	204,503
セグメント利益	4,263	2,810	954	1,753	9,782	△1,869	7,913

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,869百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用1,869百万円が含まれております。全社費用は、提出会社及び一部のエリア統括会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「大豆加工素材」に含まれていた豆乳及びUSS豆乳製品事業の製造販売について、経営上の管理区分の見直しを行ったことにより、「乳化・発酵素材」に含めて表示する方法に変更しております。

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「植物性油脂」、「業務用チョコレート」、「乳化・発酵素材」、「大豆加工素材」の外部顧客への売上高がそれぞれ558百万円、39百万円、19百万円、25百万円減少しております。また、セグメント利益が「植物性油脂」は0百万円増加、「業務用チョコレート」、「乳化・発酵素材」及び「大豆加工素材」はそれぞれ2百万円、2百万円、0百万円減少しております。

不二製油グループ本社（株） 決算補足資料

2021年度（2022年3月期）

- 第2四半期 -

ページ	項目
1	表紙
2	0-1 : 注記 / 為替情報
3	1-1 : 2021年度 連結業績 2Q(3ヶ月)
4	1-2 : 2021年度 連結業績 2Q累計
5	1-3 : 2021年度 連結業績 (2Q累計/事業別・所在地別マトリクス)
6	2-1 : 主な指標
7	3-1 : 2021年度 連結業績予想
8	3-2 : 2021年度 連結業績予想 (通期/事業別・所在地別マトリクス)

0-1 : 注記 / 為替情報

注記情報

・2019年度 決算期変更の実施

2019年度は、海外グループ会社（ブラマー、豪州IFSを除く）の決算期変更の為、15ヶ月の変則決算となっております。
そのため、一部資料では調整した数値を記載しております。

・一部製品のセグメントの変更による遡及修正

2021年度より、一部製品を大豆加工素材セグメントから乳化・発酵素材セグメントへ組み替えています。
その為、2020年度及び2019年度の数値を参考値として遡及修正して表示しています。

主な為替レート

・P/L：期中平均レート、B/S：期末レート

		2020年度	2020年度	2021年度	対前年同期		2021年度 計画前提※
		2Q	期末	2Q	差	増減率	
\$	P/L	106.92	106.06	109.80	+2.88	+2.7%	109.80
	B/S	105.80	110.71	111.92	+1.21	+1.1%	-
BRL	P/L	19.87	19.62	20.89	+1.02	+5.1%	20.89
	B/S	18.76	19.44	20.58	+1.14	+5.9%	-
€	P/L	121.30	123.70	130.90	+9.60	+7.9%	130.90
	B/S	124.17	129.80	129.86	+0.06	+0.0%	-
人民幣元	P/L	15.26	15.67	16.99	+1.73	+11.3%	16.99
	B/S	15.54	16.84	17.30	+0.46	+2.7%	-

・P/Lは前年同期を、B/Sは前年度期末（2020年度末）を比較

・2021年度 2Qのブラマーに適用した為替レート(\$)は、P/L 108.80、B/S 109.98

※計画前提P/Lレートは、11月時点の見通しの数値

1-1 : 2021年度 連結業績2Q(3ヶ月)

(単位：億円)

		FY2020 2Q実績	FY2021 2Q実績	前年同期比 増減額	増減要因(対前年同期比較)
売上高	植物性油脂	247	326	+80	原料価格上昇を受けた販売価格の上昇、販売数量の増加により増収。
	業務用チョコレート	398	459	+62	前年のコロナウイルスの影響による需要減からの回復による、日本、米州、東南アジア、欧州での販売数量の増加により増収。
	乳化・発酵素材	170	187	+17	前年のコロナウイルスの影響による需要減からの回復に加え、日本での洋菓子向けの堅調な販売、中国でのフリリングの増加により増収。
	大豆加工素材	85	85	+1	中国の機能剤の販売数量が増加し増収。
	合計	899	1,058	+159	
営業利益	植物性油脂	16	22	+6	原料価格上昇や米州新工場の費用増の影響（▲2億円）はあるものの、欧州の販売数量の増加を主に増益。
	業務用チョコレート	8	17	+8	米国の前年のコロナウイルスの影響による需要減からの回復に加え、日本、ブラジルでの堅調な販売により増益。
	乳化・発酵素材	5	3	▲3	日本の販売数量増による増益要因はあったが、原料高による中国での採算性低下により減益。
	大豆加工素材	10	6	▲4	原料コスト上昇による採算性低下に加え、欧州の新工場等の経費の増加により減益。
	グループ管理費用	▲9	▲10	▲1	
合計	31	38	+7		
営業利益率		3.4%	3.6%	+0.2pt	
経常利益		30	39	+9	
四半期純利益		15	25	+10	

● 決算概要

売上高は、植物性油脂は主に販売価格の上昇により、その他のセグメントでは主に販売数量の増加により増収になりました。
営業利益は、費用増や原料高の影響を受けた大豆加工素材、乳化・発酵素材は減益となりましたが、植物性油脂や業務用チョコレートの販売数量増加により増益になりました。

● 特記事項

・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。
・2021年度から大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に組み替えたことから、2020年度を遡及修正して表示しております。

1-2 : 2021年度 連結業績 2Q累計

(単位：億円)

	FY2020 2Q 累計	FY2021 2Q 累計	前年同期比 増減額	増減要因(対前年同期比較)
売上高				
植物性油脂	470	617	+147	原料価格上昇を受けた販売価格の上昇、販売数量の増加により増収。
業務用チョコレート	751	876	+125	販売数量の増加により増収。
乳化・発酵素材	337	377	+40	日本におけるトーラクの譲渡による減収要因はあったが、販売数量の増加により増収。
大豆加工素材	168	175	+7	大豆たん白素材の販売数量増加を主因に増収。
合計	1,726	2,045	+319	
営業利益				
植物性油脂	34	43	+8	原料価格上昇や米州新工場の費用増の影響（▲4億円）はあるものの、欧州、東南アジア、米州の販売数量増を主因に増益。
業務用チョコレート	28	28	▲0	販売数量増加による増益要因はあったが、前年度のブラマーのカカオ先物益（+13億円）の剥落により微減益。
乳化・発酵素材	6	10	+3	東南アジアの固定費の上昇、原料価格上昇による中国での減益要因はあったが、日本の販売数量増加により増益。
大豆加工素材	23	18	▲5	大豆たん白素材の販売が堅調に推移するも、原料価格上昇による採算性の低下等により減益。
グループ管理費用	▲18	▲19	▲1	
合計	73	79	+6	
営業利益率	4.3%	3.9%	▲0.4pt	
経常利益	68	76	+8	
四半期純利益	43	60	+17	固定資産売却益の計上等により増加。

● 決算概要

売上高は、植物性油脂は販売価格の上昇等により、その他セグメントでは主に販売数量の増加により増収になりました。
営業利益は、前期のカカオ先物益（+13億円）の剥落による減益要因はあったものの、新型コロナウイルスからの回復を主とした販売数量の増加により増益になりました。

● 特記事項

・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。
・2021年度から大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に組み替えたことから、2020年度を遡及修正して表示していません。

1-3 : 2021年度 連結業績 (2Q累計/事業別・所在地別マトリクス)

(単位:百万円)

売上高	年度※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2021 2Q	19,986	+3,111	19,543	+4,704	9,066	+1,821	1,550	+324	11,539	+4,741	61,686	+14,701
	FY2020 2Q	16,875	-	14,839	-	7,245	-	1,226	-	6,798	-	46,985	-
	FY2019 (4-9月)	17,040	-	13,762	-	8,124	-	1,337	-	7,557	-	47,822	-
業務用チョコレート	FY2021 2Q	18,201	+2,273	59,010	+7,658	5,516	+1,378	2,663	+404	2,216	+787	87,608	+12,500
	FY2020 2Q	15,928	-	51,352	-	4,138	-	2,259	-	1,429	-	75,108	-
	FY2019 (4-9月)	17,679	-	57,014	-	5,262	-	1,299	-	1,840	-	83,097	-
乳化・発酵素材	FY2021 2Q	24,818	+1,128	-	-	5,397	+1,094	7,448	+1,781	-	-	37,665	+4,004
	FY2020 2Q	23,690	-	-	-	4,303	-	5,667	-	-	-	33,661	-
	FY2019 (4-9月)	30,544	-	-	-	4,501	-	5,789	-	-	-	40,834	-
大豆加工素材	FY2021 2Q	16,481	+528	-	-	-	-	1,061	+181	-	-	17,543	+710
	FY2020 2Q	15,953	-	-	-	-	-	880	-	-	-	16,833	-
	FY2019 (4-9月)	15,646	-	-	-	-	-	1,111	-	-	-	16,757	-
売上高計	FY2021 2Q	79,488	+7,041	78,553	+12,362	19,981	+4,295	12,724	+2,689	13,755	+5,528	204,503	+31,914
	FY2020 2Q	72,447	-	66,191	-	15,686	-	10,035	-	8,227	-	172,589	-
	FY2019 (4-9月)	80,910	-	70,776	-	17,888	-	9,537	-	9,397	-	188,511	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益	年度※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2021 2Q	1,867	▲126	877	+45	818	+267	▲23	▲106	559	+613	164	+144	-	-	4,263	+836
	FY2020 2Q	1,993	-	832	-	551	-	83	-	▲54	-	20	-	-	-	3,427	-
	FY2019 (4-9月)	2,024	-	1,168	-	627	-	150	-	648	-	122	-	-	-	4,742	-
業務用チョコレート	FY2021 2Q	2,709	+555	▲97	▲737	148	+87	▲25	+177	49	▲109	24	+1	-	-	2,810	▲26
	FY2020 2Q	2,154	-	640	-	61	-	▲202	-	158	-	23	-	-	-	2,836	-
	FY2019 (4-9月)	2,929	-	▲1,490	-	476	-	30	-	254	-	14	-	-	-	2,214	-
乳化・発酵素材	FY2021 2Q	728	+682	-	-	▲337	▲231	377	▲220	-	-	186	+90	-	-	954	+321
	FY2020 2Q	46	-	-	-	▲106	-	597	-	-	-	96	-	-	-	633	-
	FY2019 (4-9月)	1,000	-	-	-	219	-	580	-	-	-	145	-	-	-	1,946	-
大豆加工素材	FY2021 2Q	1,605	▲436	-	-	-	-	235	▲31	▲137	▲112	50	+79	-	-	1,753	▲499
	FY2020 2Q	2,041	-	-	-	-	-	266	-	▲25	-	▲29	-	-	-	2,252	-
	FY2019 (4-9月)	1,913	-	-	-	-	-	311	-	▲3	-	51	-	-	-	2,273	-
連結調整	FY2021 2Q	133	+81	▲1	▲6	4	+7	23	+28	32	▲62	▲192	▲49	-	-	-	-
	FY2020 2Q	52	-	5	-	▲3	-	▲5	-	94	-	▲143	-	-	-	-	-
	FY2019 (4-9月)	84	-	3	-	4	-	48	-	▲20	-	▲119	-	-	-	-	-
グループ管理費用	FY2021 2Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,869	▲58	▲1,869	▲58
	FY2020 2Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,811	-	▲1,811	-
	FY2019 (4-9月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,806	-	▲1,806	-
営業利益計	FY2021 2Q	7,043	+754	779	▲701	634	+131	588	▲150	503	+330	233	+266	▲1,869	▲58	7,913	+575
	FY2020 2Q	6,289	-	1,480	-	503	-	738	-	173	-	▲33	-	▲1,811	-	7,338	-
	FY2019 (4-9月)	7,952	-	▲318	-	1,327	-	1,121	-	879	-	215	-	▲1,806	-	9,370	-

※「FY2019 (4-9月)」は、2019年4-9月の各社決算数値を参考値として記載しています。(プラマー、豪州IFSを除く)

※2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に振り替えて表示しています。その為、2020年度及び2019年度の数値を参考値として遡及修正して表示しています。

2-1:主な指標

大項目	項目	単位	備考	2018	2019 15ヶ月決算	2020	2020 2Q累計	2021(累計実績)				2021 修正予想
								1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	営業利益	億円		185	236	179	73	41	79		180	
	営業利益成長率	%		▲9.5%	* ¹	* ¹	▲19.6%	▲3.4%	+7.8%		0.5%	
	EBITDA	* ² 億円		312	415	343	154	83	163		-	
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	159	180	208	100	39	84		190	
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	110	130	118	58	30	61		-	
	ROA	%	経常利益÷総資産 (期首と期末の平均値)	5.5%	5.9%	4.8%	3.8%	4.1%	4.1%	* ³	4.6%	
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	7.3%	10.5%	7.0%	5.6%	8.7%	7.2%		6.9%	
	売上高純利益率	%	当期純利益÷売上高	3.8%	3.9%	3.0%	2.5%	3.6%	2.9%		-	
	総資産回転率* ⁴	回	売上高÷総資産	0.77	1.13	1.02	0.95	1.09	1.11		-	
	財務レバレッジ	倍	総資産÷自己資本	2.5	2.4	2.2	2.4	2.2	2.2		-	
ROIC	%	営業利益×(1-法人税率) ÷(期末株主資本+有利子負債)	4.0%	5.1%	4.0%	3.2%	3.7%	3.5%		-		
BS項目	総資産	億円		3,905	3,674	3,585	3,572	3,640	3,736		3,797	
	有利子負債	億円		1,605	1,462	1,313	1,458	1,335	1,350		1,337	
	NET有利子負債	億円		1,392	1,276	1,108	1,197	1,149	1,191		1,187	
	NET運転資本	億円		171	632	697	663	716	719		-	
	自己資本比率	%		40.1%	42.3%	44.6%	42.5%	45.8%	45.3%		45.4%	
	負債比率	%		147.9%	134.7%	122.2%	133.5%	116.8%	119.0%		114.3%	
	のれん(広義)	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産等を含んだもの	605	527	466	490	487	479		-	
	のれん償却額	億円		7	24	21	10	5	11		21	
	のれん(広義)純資産比率	%		38%	33%	29%	32%	29%	28%		-	
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷自己資本	1.0	0.9	0.8	1.0	0.8	0.8		0.7	
Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債(有利子負債-現金) ÷株主資本	0.9	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7		0.7		
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		226	371	382	174	32	31		133	
	投資キャッシュフロー	億円		▲791	▲183	▲174	▲70	▲45	▲82		▲167	
	フリーキャッシュフロー	億円		▲565	188	208	104	▲14	▲51		▲34	
	財務キャッシュフロー	億円		655	▲207	▲199	▲31	▲9	3		▲27	
	CCC	日	2018年度のCCCはプラマ-を除く。 2019年度は15ヶ月決算を12ヶ月に換算し算出	105	113	107	118	103	105		103	

*¹ FY2019、2020の営業利益成長率は、FY2019が15ヶ月決算の為、表示していません。

*² 過年度のEBITDAは遡及修正した値を記載しています。

*³ FY2020.2Q累計とFY2021.1Q、FY2021.2Q累計のROA、ROE、ROICについては、年間換算した参考値を記載しています。

*⁴ 年度は期末総資産、四半期は期首と期末の平均値の総資産を用いて算出しています。

※補足：主な設備投資

年度	主な投資項目	億円
2021	米州 油脂 新拠点設立	4
2Q	米州 プラマ-設備投資	10
	米州 ハラルド新工場・設備投資など	3
	欧州 水溶性えんどう多糖類の新工場設立	16
	計	84
2021	米州 油脂 新拠点設立	11
計画	米州 プラマ-設備投資	42
	米州 ハラルド新工場・設備投資など	25
	中国 生産ライン拡張	23
	計	190

株主還元

株主還元方針

- ・配当性向30-40%
- ・安定かつ継続的な配当の実施

1株当たりの配当金の推移 (単位：円)

年度	中間配当	期末配当	合計	配当性向
2013	13	13	26	27.4%
2014	13	17	30	27.6%
2015	17	18	35	32.6%
2016	22	22	44	31.2%
2017	23	25	48	30.0%
2018	25	25	50	37.1%
2019	27	29	56	29.4%
2020	26	26	52	40.6%
2021 予想	26	26	52	38.9%

3-1： 2021年度 連結業績予想

(単位：億円)

		通期					
		FY2020 実績	FY2021 期初予想	FY2021 修正予想	増減額 FY2020実績 VS FY2021修正予想	増減額 FY2021期初予想 VS FY2021修正予想	備考
売上高	植物性油脂	984	1,075	1,301	+317	+226	販売数量の増加、販売価格の上昇を見込み増収。また、原料価格が期初の想定より高値して推移していることから、通期見通しを上方修正。
	業務用チョコレート	1,624	1,762	1,839	+215	+77	需要回復に加え、拡販施策による販売数量の増加により、増収を計画。
	乳化・発酵素材	706	803	793	+87	▲10	日本や中国での販売数量の回復等により、増収を計画。
	大豆加工素材	333	360	367	+34	+7	販売数量の増加に加え、販売価格の上昇を見込み、増収を計画。
	合計	3,648	4,000	4,300	+652	+300	
営業利益	植物性油脂	79	62	75	▲4	+13	原料高による採算性低下により前期比で減益を計画。期初計画比では、上期の堅調な販売などを勘案し改善を見込む。
	業務用チョコレート	76	89	86	+10	▲3	米国のカカオ先物益の剥落等の減益要因はあるものの、日本、ブラジルでの堅調な推移により増益を計画。
	乳化・発酵素材	27	38	29	+2	▲8	日本、中国での販売数量の回復等により前期比で増益を見込む。期初計画比では、東南アジアの採算性の低下や原料高の影響などを勘案。
	大豆加工素材	35	34	30	▲5	▲4	販売数量の増加を見込むも、原料高による採算性の低下により減益を計画。
	グループ管理費用	▲38	▲42	▲41	▲3	+2	
合計	179	180	180	+1	-		
営業利益率		4.9%	4.5%	4.2%	▲0.7pt	▲0.3pt	
経常利益		176	168	168	▲8	-	
親会社株主に帰属する当期純利益		110	115	115	+5	-	

● 決算概要

売上高：原料価格などの状況を勘案し、4,300億円（期初計画比+300億円）に修正。

営業利益：堅調な販売を見込むも、原料高による採算性の低下を見込み、期初計画の180億円を据え置き。

● 特記事項

・上記業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

・2021年度から大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に組み替えたことから、2020年度を遡及修正して表示しております。

3-2： 2021年度 連結業績予想（通期/事業別・所在地別マトリクス）

（単位：百万円）

売上高	年度 ※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
植物性油脂	2021 修正計画	40,800	+5,579	46,500	+16,167	18,700	+3,713	2,500	▲214	21,600	+6,444	130,100	+31,687
	2021 期初計画	35,700	+479	38,000	+7,667	16,400	+1,413	2,800	+86	14,600	▲556	107,500	+9,087
	2020 実績	35,221	-	30,333	-	14,987	-	2,714	-	15,156	-	98,413	-
業務用チョコレート	2021 修正計画	41,900	+5,629	118,700	+10,962	12,100	+2,371	6,600	+972	4,600	+1,524	183,900	+21,455
	2021 期初計画	38,400	+2,129	114,100	+6,362	12,100	+2,371	7,900	+2,272	3,700	+624	176,200	+13,755
	2020 実績	36,271	-	107,738	-	9,729	-	5,628	-	3,076	-	162,445	-
乳化・発酵素材	2021 修正計画	52,200	+2,475	-	-	11,000	+1,792	16,100	+4,436	-	-	79,300	+8,701
	2021 期初計画	52,500	+2,775	-	-	11,000	+1,792	16,800	+5,136	-	-	80,300	+9,701
	2020 実績	49,725	-	-	-	9,208	-	11,664	-	-	-	70,599	-
大豆加工素材	2021 修正計画	34,600	+2,956	-	-	-	-	2,000	+323	100	+100	36,700	+3,379
	2021 期初計画	33,900	+2,256	-	-	-	-	2,000	+323	100	+100	36,000	+2,679
	2020 実績	31,644	-	-	-	-	-	1,677	-	-	-	33,321	-
売上高計	2021 修正計画	169,500	+16,637	165,200	+27,129	41,800	+7,875	27,200	+5,515	26,300	+8,068	430,000	+65,221
	2021 期初計画	160,500	+7,637	152,100	+14,029	39,500	+5,575	29,500	+7,815	18,400	+168	400,000	+35,221
	2020 実績	152,863	-	138,071	-	33,925	-	21,685	-	18,232	-	364,779	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益	年度 ※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
植物性油脂	2021 修正計画	3,835	▲615	1,120	▲807	1,222	+131	▲32	▲199	1,168	+1,093	181	+21	-	-	7,495	▲377
	2021 期初計画	3,499	▲951	1,127	▲800	793	▲298	▲61	▲228	754	+679	48	▲112	-	-	6,160	▲1,712
	2020 実績	4,450	-	1,927	-	1,091	-	167	-	75	-	160	-	-	-	7,872	-
業務用チョコレート	2021 修正計画	6,678	+804	1,215	▲53	610	+261	▲42	+124	112	▲121	36	▲12	-	-	8,611	+1,003
	2021 期初計画	5,765	▲109	2,116	+848	798	+449	39	+205	137	▲96	33	▲15	-	-	8,888	+1,280
	2020 実績	5,874	-	1,268	-	349	-	▲166	-	233	-	48	-	-	-	7,608	-
乳化・発酵素材	2021 修正計画	1,601	+141	-	-	▲334	▲182	1,477	+159	-	-	200	+127	-	-	2,945	+246
	2021 期初計画	1,662	+202	-	-	274	+426	1,801	+483	-	-	39	▲34	-	-	3,776	+1,077
	2020 実績	1,460	-	-	-	▲152	-	1,318	-	-	-	73	-	-	-	2,699	-
大豆加工素材	2021 修正計画	2,669	▲636	-	-	-	-	580	+249	▲333	▲207	89	+111	-	-	3,006	▲482
	2021 期初計画	3,040	▲265	-	-	-	-	644	+313	▲365	▲239	72	+94	-	-	3,391	▲97
	2020 実績	3,305	-	-	-	-	-	331	-	▲126	-	▲22	-	-	-	3,488	-
連結調整	2021 修正計画	215	+165	▲1	▲5	4	▲1	23	+4	32	▲88	▲274	▲74	-	-	-	-
	2021 期初計画	192	+142	-	▲4	-	▲5	-	▲19	-	▲120	▲192	+8	-	-	-	-
	2020 実績	50	-	4	-	5	-	19	-	120	-	▲200	-	-	-	-	-
グループ管理費用	2021 修正計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,059	▲303	▲4,059	▲303
	2021 期初計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲4,215	▲459	▲4,215	▲459
	2020 実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲3,756	-	▲3,756	-
営業利益計	2021 修正計画	15,000	▲140	2,334	▲866	1,504	+210	2,007	+337	978	+675	233	+175	▲4,059	▲303	18,000	+89
	2021 期初計画	14,158	▲982	3,243	+43	1,865	+571	2,423	+753	526	+223	-	▲58	▲4,215	▲459	18,000	+89
	2020 実績	15,140	-	3,200	-	1,294	-	1,670	-	303	-	58	-	▲3,756	-	17,911	-

※2021年度より、大豆加工素材事業の豆乳およびUSS豆乳製品は、乳化・発酵素材事業に含めて表示しています。その為、2020年度の数値を遡及修正して表示しています。